

岩日タイムズ

発行者
岩瀬日本大学
高等学校
ソーシャルメディア部
緒方 桃子

日比谷音楽祭2021

亀田誠治さん オンライン取材

ボーダーレスな音楽祭

5月16日、日比谷音楽祭実行委員長の亀田誠治さんのオンライン取材会が行われた。

亀田さんは、椎名林檎さんや平井堅さんなど様々なアーティストのプロデュースを手掛けており、自身も東京事変のベ이스トとして活動し

ている。日比谷音楽祭は、2019年に日比谷公園で始まった野外フェスである。昨年は新型コロナウイルスの影響で開催中止。

今年も現地とオンラインという2つの開催方法が検討されたが、緊急事態宣言の延長により無観客生



Hibiya Dream Session1 出演アーティスト

配信によるオンライン開催が決定した。亀田さんは「2021年は絶対に開催するという思いで準備を進めてきた。対面の代わりではなく、オンラインならではの音楽祭だ」と力強く語った。

日比谷音楽祭のコンセプトは「音楽の新しい循環をみんなで作る、フリーでボーダーレスな音楽祭」だ。曲に手話をつける「手話うた」は、耳の不自由な方との障壁をなくすための取り組みであり、手話に興味を持つきっかけにもなっている。また、世代やジャンルの枠も越えて楽しめるよう工夫されている。演歌歌手の石川さゆりさんの曲を昔からのファンと若い世代が一緒に会場で楽しんだり、バイオリンで生演奏とともに絵本の読み聞かせをしたりするなど親・子・孫の3世代が楽しめる音楽祭である。

進化する音楽の形

日比谷音楽祭を語る上で、音楽をオンライン配信する良さも忘れてはならない。例えば、VR（バーチャルリアリティ）といった映像技術は各自がデバイスを通して参加するからこそより鮮明に楽しめる。さらに、遠方の人々が簡単に参加できる、自分の見たいアーティストだけを選択できるといった利点もある。

亀田さんは「生の空気感をオンラインで置き換えるのには無理があるが、配信でしか楽しめないものもある。音楽の中から出てくる本質的なパワーで、配信でもアーティストの気持ちをお届けられるよう頑張っていきたい」と話した。ウィルスよりも負の気持ちがある人々の心を圧迫している現在において、亀田さんは人と人との心の距離をマインドディス

タンスと例えた。「コロナ禍の今こそ音楽が必要だ。アーティストの血の通った音を一人でも多くの人に届けてマインドディスタンスを無くし、人々の心を繋げていきたい」と音楽の持つ力を語った。ラジオ、CD、サブスクリプション……音楽は時代とともに目まぐるしく形を変える。しかし、人々を幸せにしたいという想いは、これからも変わらない。

編集後記

人生で大切にしていくことは何かという質問に対して亀田さんは「自分の考えで動く、好きなことをとにかくやる」と笑顔で答えていた。まずは自分が楽しむことで、周りに幸せを伝播させていくのだらう。自分も音楽の力を通して、ポジティブな輪を広げていきたい。

(緒方)

VR（バーチャルリアリティ）

VRは「Virtual Reality」の略で、「人工現実感」や「仮想現実」と訳される。遠隔地から治療を支援する医療、現地に行かなくても体験できる観光や住宅販売など、さまざまな分野への利用が広がっている。

参加方法

日比谷音楽祭2021
5月29日(土)、30日(日) 11時~20時に動画配信「LINE」にて無料生配信が行われる。「LINE」会員の方はもちろん、会員でない方も「31日間の無料トライアル」により無料で視聴可能。詳しくは、こちらのQRコードから。

